

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800080		
法人名	医療法人社団共寿会		
事業所名	グループホーム萩原福寿苑		
所在地	岐阜県下呂市萩原町古関126-1		
自己評価作成日	令和7年7月15日	評価結果市町村受理日	令和7年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2192800080-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念～人と自然が共に暮らす空間 お年寄りひとりひとりが住み慣れた地域で ふつうにくらせる しあわせを～ 広い敷地内で安全に車椅子の方でも散歩して頂ける。春には桜、秋には紅葉が直ぐ近くで見られ自然に恵まれた環境である。どの方も、その人らしく尊厳を保ちながら家庭的な雰囲気の中で過ごして頂く。家族や地域との関係を大切にしながらそれぞれの役割を持って生活して頂く。家族、かかりつけ医と連携をとり尊厳に配慮しながら穏やかな終末期を迎えて頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に建てられた平屋建てのホームの苑庭からは、春の桜と秋の紅葉が楽しめる環境にある。立ち上げ当時から、法人理念とは別に、職員が「自分たちの職場は自分たちで作る」という意気込みで、毎年、ユニット毎に目標を掲げている。この目標は具体的で分かり易く、更に覚えやすくなっており、職員は常に意識しながら実践に繋げている。利用者一人ひとりのニーズに向き合いながら、常に柔軟な支援を行っており、家族の評価も得ている。時々、利用者が可愛がっていた愛犬を連れて家族が訪れており、他の利用者の癒しにもなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「住み慣れた地域で普通に暮らせる幸せを」各ユニットに目標を掲示し、常に意識しながら実践に努めている。	法人理念と共に、毎年、職員らで決めたユニット毎の目標を目に付く所に掲げている。東ユニットは「心に寄り添い、温かな声掛けを行う」、西ユニットは「利用者様と座ってコミュニケーションを取ろう」とし、職員は常に意識しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	3月のおひな祭りのがんどうち(地域行事)にはお菓子を用意して子供達を迎え、利用者から子供へお菓子を手渡しされる。地元の美容室やヤクルト販売、移動パン屋を利用している。	自治会に参加しており、回覧板が回ってくる。「がんどうち」という伝統ある行事では、子供たちの姿が見られるようになっている。利用者は地元出身が多く、近隣の友人がタクシーを使って面会に訪れている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を開催し、市の職員、民生児童委員、区長、ご家族を招き、活動内容や事故ヒヤリハットを報告しながら事業所を理解してもらえるよう務め意見を頂いている。	会議は、隔月に開催している。市職員、民生委員、区長、家族の出席を得て、活動報告・ヒヤリハット報告を含め、現状について意見交換を行っている。様々な要望・助言を受け、詳細に書かれた議事録は家族にも送っている。会議がマンネリ化しないよう、新たな参加者について、検討している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者が運営推進会議に参加しており質問や意見交換が出来ている。市開催の会議に参加している。	運営推進会議には、市職員の参加を得ており、メールや電話で相談やアドバイスを受けている。市には事業者協議会もあり、年に3～4回の活動で情報交換等をしているが、コロナ禍以降、少し減っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の委員会にて各ユニットから利用者状況の報告あり不適切ケアではないかの確認と改善に取り組んでいる。	3か月毎に身体拘束廃止委員会を開催し、指針の確認や拘束の対象となる具体的な行為の理解などについて話し合っている。議事録を虐待防止と分けて整理し、職員に分かり易くしていくとしている。定期的に内部研修を行っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年二回の勉強会あり。普段から皮下出血や外傷発見時に直ぐ看護師へ報告と事故報告書にて全体で周知し虐待が見過ごされることがないように努めている。	虐待防止に関する研修を年2回開催し、全職員が学んでいる。ヒヤリハットの事例(同じ利用者の皮下出血を続けて発見)から、往診時に医師に確認を依頼、持病による症状であることが判明している。事業所全体で、常に不適切ケアを見過ごさないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン研修にて全職員が学び、必要時は関係者と相談や他職員と情報を共有している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約書を全て家族と読み合わせを行い同意を得られてから署名を頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話の機会にも意見を頂くようにしている。毎月発行のお便りにてお知らせもしており運営に反映させるよう努めている。	毎月、利用者の様子を手書きで家族に伝えている。家族には、運営推進会議や電話で意見を聞き、できる限り運営に活かしている。花見などの行事に参加したいという希望や、口腔ケアを嫌がる利用者家族が、歯科医師の治療の際に、同席したいとの要望があり、運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議にて各ユニット職員から出た意見や提案を検討しより良い職場環境となるよう努めている。	職員は、自分達で良い職場にするという思いで、日々、前向きに取り組んでいる。管理者やリーダーも現場に入り、ユニット毎に伝達ノートを活用して話し合っている。職員の気づきやアイデアは速やかに取り入れ改善に繋げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	業務内容等を確認し毎月のリーダー会議にて意見を出し合い職場環境や就業時間時間等の整備に努めている。	管理者と職員間の風通しが良く、人間関係も良好である。休憩時間の確保や急な欠勤も速やかに補充ができる体制があり、働きやすさの理由となっている。管理者は、日頃から職員の悩みを聞き、サポートに努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修やオンライン研修を受講している。介護職員による喀痰吸引研修も受講できるよう努めている。	内部研修を中心に、職員がスマホでも学べるオンライン研修を活用しながら、職員教育に取り組んでいる。資格取得に向けては、費用の援助も行なっている。新人職員にはOJTを使って、ベテラン職員が現場で指導に当たっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修の参加や市の会議等の参加にて同業者との交流を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の気持ちや選択を重視した言葉かけを行い相談するようにして馴染の関係になれるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにて利用者ひとりひとりを理解するよう努め普段の会話からも本人の希望、意向の把握に努めている。	利用者の普段の会話や行動、表情から思いをくみ取り、伝言ノートにて把握している。ホールには、利用者が昔、作った作品が展示されており、思いの把握の参考になっている。理美容希望や嗜好品の持ち込みについては、家族からの要望に応じている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングや三ヶ月毎のケアカンファレンスにて居室担当者を中心に話し合い本人、家族の意向と職員間の意見を反映し介護計画を作成している。	毎月のモニタリングやカンファレンス時に話し合い、必要な支援を盛り込んだ個別性のある介護計画になっている。本人の暮らし方を反映した計画になっており、日々の記録は個々の課題に向けた内容となっている。計画期間にその成果が出ている利用者もある。	介護計画と実践が連動しており、成果も出ている。今後、更に分かり易く整理した上で課題や援助内容、目標達成までの期間等を明確にし、次の計画作りに活かせる工夫を期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子やケア等は利用者個別の記録用紙に記録し常に職員間で情報共有し介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は、生活記録として時系列にまとめ、手書きで記録している。生活の様子や本人の言葉などを記録し、いつでも職員が確認、情報を共有しながら実践し、プランの見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子の必要な方にはレンタルの相談や褥瘡予防に必要な方にはエアーマットの案内をしている。歯科衛生士による指導やケアも取り入れている。	歯科衛生士による口腔ケアや福祉用具のレンタル相談など、柔軟な対応で個々のニーズに応じている。他施設から移転してきた利用者は、思いに寄り添うことで笑顔が増えてきており、家族も愛犬同伴で訪問している。	

岐阜県 グループホーム萩原福寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移送、付き添いサービス機関との連携調整。地域資源の紹介等により安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の同意を得て同法人の医師をかかりつけ医に変更している。専門医への受診は家族が同行しているが、緊急時には看護師にて対応している。かかりつけ医との関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している。	現在、利用者全員が、同法人の医師をかかりつけ医としている。専門医への受診が必要な場合は、かかりつけ医の紹介状を持って家族が付き添っている。普段の医療情報は職員の看護師が記録し、緊急時は同法人医師が対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護看護情報提供書や電話にて情報の提供を行っている。病院内の支援相談室との連携をとり情報交換や相談に努めている。	入院時には事業所の看護師が介護看護情報提供書を提出している。退院カンファレンスには看護師が出席し、病院の看護師と情報交換している。事業所でもカンファレンスを開き、主治医の指導の下で継続観察を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、看取り介護の方針を家族に説明している。かかりつけ医と家族との面談もあり診療計画を確認している。	入居時に、重度化や看取りの方針を説明している。終末期の段階となった際には、希望があれば家族の宿泊も可能としている。緊急時には、主治医と看護師との連携を確立し、関係者で話し合いながら、家族と職員の安心に繋げている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルやオンライン研修、かかりつけ医の勉強会にて実践力を身に付けるよう努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災士中心に消防署立ち合いの下で年二回の避難訓練、年一回の非常災害訓練を実施している。区長にも連絡をして協力体制を築いている。	年2回、防災訓練を実施し、備蓄品の点検等を行なっている。緊急時は区長の協力を得る事ができ、職員9名が5km以内に在住で参集も早い。過去に周辺で土砂災害があり、経験を活かして早めに高台にある同法人の老健に避難をしている。近くの消防署とは、早期避難について話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇のオンライン研修にて全職員が学習している。不適切ケアのチェックを毎年行い自己反省ができるようにしている。	全職員が接遇研修を受けている。トイレの入り口は、暖簾とアコーディオンカーテンを取付け、プライバシーを守っている。職員も地元出身者が多く、方言は温かさがあるが、馴れ合いにならないよう意識しながらケアに当たっている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のペースに合わせて生活して頂けるよう努めている。昼間の自由な臥床時間。10時の飲み物は各自で選択してもらい好みの物を提供し飲用されている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で会話時に訴えを生活記録に残し、職員間で情報を共有しながら、希望にそった支援ができるように務めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食手作りの食事を提供している。陽気の良い時には外庭で花や風景を見ながら皆さんとお茶会や食事を楽しんでいただけようになっている。ほう葉の時期には皆さんとほうば寿司作りを毎年の行事にしている。秋には干し柿作りを楽しみにされている。	献立は職員が交代で考えたり、利用者の要望を聞きながら作っている。食材は近隣のスーパーで購入し、3食を手作りしている。季節感のあるメニューも定期的に提供し、朴葉寿司作りでは、利用者も楽しみながら手伝っている。天気の良い日は、気分転換を図り、庭でのお茶会や食事を楽しめるよう工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の個別のチェック表があり管理している。ケアカンファレンスでも検討し一人ひとりの状態に合った支援ができるよう努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎年、歯科衛生士による勉強会があり、職員と利用者も参加し口腔衛生の必要性を学び、利用者にも理解して頂きながらケアしている。	歯科衛生士が来所し、利用者・職員ともに口腔ケアについて学んでいる。義歯の夜間管理は、それぞれ容器に入れて預かり、消毒している。食事前の口腔体操も実施している。希望者は月1回歯科の往診を受けている。	

岐阜県 グループホーム萩原福寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて把握し、ケアカンファレンスにて検討しその人に合った支援ができるよう努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	柚木風呂や入浴剤を使用し、ゆっくりと入浴を楽しんで頂けるよう努めている。入浴予定日に入りたくない方には翌日に入浴していただいている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜の臥床時間はそれぞれの生活習慣に合わせて対応している。室温調整も一人ひとりの体感に合わせて調整している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方せんにて全職員がいつでも確認出来るようにしている。変更があった場合等には看護師からその都度説明があり全職員が把握できるよう伝えられている。	服薬担当者が、氏名と日付を確認し、他の職員が再度確認した上で、本人にも確認し、誤薬、配薬ミス防止している。落薬防止は試行錯誤の結果、職員がスプーンで本人の口に入れ、飲み込みを確認している。服薬による体調変化は看護師が医師に連絡している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れ、野菜の収穫、洗濯たたみ、ぬり絵、ちぎり絵、家族への手等、それぞれのかたに合った支援ができるよう努めている。嗜好品は希望時に対応している。	職員は、利用者が興味を引きそうなクラフトや軽作業を考えて用意し、利用者それぞれが好きな事を選んでしている。職員の苦肉の策ではあるが、温泉旅館から届く不要となったタオルは、リハビリとして畳む作業を何度も繰り返せるよう工夫し、達成感を実感できるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外庭の散歩や飛騨川公園での花見支援。家族との外出、外泊。地域の集い(ごぼう先生の体操)参加。	現在は、外出・外泊も許可し、家族の訪問も増えている。面会時には、居室入室も可とし、時間制限はない。車椅子利用者も同様に対応している。花見には、2台の車に分乗し、おやつを食べるなど、楽しんでいる。今後、紅葉見物も予定している。	

岐阜県 グループホーム萩原福寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持はないが、立替払いにて希望時に対応している。ヤクルト販売もあり好まれる方は定期購入されている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自由に電話されている。スマホ保持の方もいる。毎年、年賀状は全員出されるよう、字の書けない方には代筆し支援している。遠方の家族から母の日等に贈り物が届くと、日々の生活の写真と簡単な文章を書いてもらい郵送している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物。温湿度計が設置しており快適な温度調整や換気に努めている。	清潔を保たれた共用空間は、広くて明るい。利用者は、廊下に飾られた大きな油絵をソファに座ってゆっくり眺めたり、設置されている手すりでリハビリをする事もある。畳コーナーや食卓、ソファ等で気の合う人同士が好きな場所で寛げるよう配置の工夫がある。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合わない方とのトラブルに注意し席を工夫している。廊下は広く、自由に窓の外を見て頂いている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を飾られる方や自分で作られた作品を飾られる方もいる。ベッドや家具の配置は家庭での習慣に合うようにしている。好みの寝具を持参の方もいる。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すり設置あり、毎日立ち上がりのリハビリをされる方もいる。ベッドにL字柵を設置することで安全に自力で移乗される方や夜間はポータブルトイレをベッドサイドに設置することで自力で排泄される方もいる。		